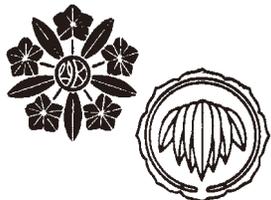


明善同窓会関東支部 会報

発行：明善同窓会関東支部
会報委員会
事務局：世田谷区上馬 1-2-11
電話：03-3421-6071
ホームページ：
<http://www.jinryoku.com/>



関東支部会長挨拶

関東支部会長 昭和41年卒 別府秀喜

同窓会は「一枚の布。強く大きなものへ」

ソチ冬季五輪開会式（2月7日）に合わせたように関東地方で大雪が降りました。都心では8日深夜、45年ぶりに積雪27cmを記録しました。この大雪も桜の季節への支度と思えば心も和みます。



さて、関東支部同窓会「総会・懇親会」を今年も風薫る5月10日（土）、午後1時から東海大学交友館（霞が関ビル35階）で開催いたします。

会長に担がれて区切りの4年を迎えました。あつとつと4年経ちました。年々歳々、時間が早く過ぎていくように感じます。この4年間、ご支援、ご協力いただいた先輩諸氏、後輩諸君に改めて御礼を申し上げます。

ご高承のとおり、同窓会は多くの方々からの協力・支援で運営されています。「一枚の布」に例えるならば、縦糸は、日頃の活動（月1回の幹事会を基本としたホームページ整備・名簿管理・会報編集・母校との連絡・現役大学生との連携強化・全国定時制陸上競技大会応援・ゴルフ大会などの同窓会としての交流・親睦を深める活動）です。対外的には東京福岡県人会（大坪修会長。S32年卒）・久留米市つじ会・高牟礼会（同郷各校同窓会）への協力活動です。

横糸は、関東支部活動（縦糸）を支えていただいている、先輩から現役大学生まで同窓会を構成する皆さんです。

先輩の経験・知見と、若い世代の柔軟な思考や行動力が、一枚の布として密接に紡ぎ込まれ、益々強く大きな布へと変わっていくこととなります。

ところで、今年の干支「甲午」（キノエウマ）は「何が起きてもおかしくない時代の始まり」とされますが、馬（午）は古来より縁起のよい動物とされ、中でも「左馬」は招福のシンボルです。また「うま」の逆は「まう」で、昔から目出度い席で踊られる「舞い」を想起させ福を招くともいわれます。

卒業生各位が世代を超え一堂に会する機会には「懇親会」だけです。薫風の5月、ご家族・お仲間をお誘い併せのうえお運びいただき、先輩・同期・後輩と楽しい一時を過ごしていただきたいと存じます。ご臨席された皆さまにはより大きな福が訪れること間違いなし！です。

末筆ですが、粉骨砕身、準備に知恵をめぐらしている幹事団諸君のご尽力に改めて心から感謝いたします。

ご挨拶

明善の後輩たちは、日ごと逞しく信頼のおける若者に成長しております。



校長 高松亮輔

本校教育活動への日頃からのご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

伝統とは、先輩から後輩へ脈々と受け継がれる精神に他ならず、不断の学びの精神や大運動会で培う創意力や困難対応力はまさしく明善を明善たらしめる心柱であり、この伝統こそが優れた人材を世に送り出す原動力になっていると確信しています。

現在本校はSSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業の指定を受け、本年4月で3年目に入ります。1月に行われた成果発表会では、化学部や生物部の研究発表、海外研修報告やポスターセッション等において、各生徒が取り組んだ成果が英語による発表を交えて行われ、JST（SSH事業を推進する文部科学省委託団体）担当者からも高い評価をいただいたところです。

しかしながら、これはまだ途中経過であり、生徒が一流の力を修得し、本校教育の真の充実につながるための完成形を示したに過ぎません。今後は、日本を代表する理数科教育を展開するため尚一層の努力を重ね、質の充実に努めて参ります。

また本校では、理数科や総合文科コース、もちろん普通科においても、国際化が進む社会に対応できる能力を育成する教育を進めております。グローバル化が進展する中で、若者たちが日本を背負って立ち、国際

社会に伍していくためには、確かな判断力を身につけてはなりません。私たちが生徒に求めるものは、困難な事態に対し逃げずに対応する力であり、自ら考え発見する力、社会を見ようとする目であり、もちろん、世に出てリーダーとなるためには、心の修養も欠かせません。本校の部活動加入率は90%を超え、生徒の成長意欲には敬服するばかりですが、今後は社会貢献活動の充実も図り、地域に生きる者として、生まれ育った郷土を足がかりとして確かな判断を導き出す揺るぎない価値観の醸成を図ることとしております。

社会の第一線で活躍される先輩方に続く、世界に羽ばたく若者たちを育成すべく、全職員一丸となって明善教育の充実に努めて参る所存でございます。今後とも、明善OBとしての変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

同窓会長 昭和41年卒 真木大樹



明善同窓会関東支部の皆様には、何かとお世話になるばかりで心よりお礼申し上げます。昨年より総会が5月に変更されたこともあり、気候的には大変良い頃に開催され心より喜んでおります。仕事の方は春の大祭（5月5日〜7日）があり、多忙な月に当たりますが、出席出来ることを楽しみにしております。

さて、久留米の同窓会本部では、今年が理事、役員改選期を迎え、選考委員会において選考が進められているところですが、正式には6月の代議員総会で承認され決定されますが、校舎の建て替えや百周年記念館（同窓会館）の耐震工事など重要な時期でもあります。

明善高校の校舎につきましては、平成29年末の完成を目指して工事が進められており、騒音と戦いながら生徒達は頑張っております。また、同窓会館も、福岡県費で耐震工事が進められており、外装もきれいに塗装工事が施されているところであります。明善校創立130周年の記念事業が平成21年に行われましたので、平成29年の完成時には創立138年目となります。創立140年の事業ともなるのではないかと話もあり、夢は膨らむばかりであります。

最近の異常気象は東京・関東地方にも大雪を降らせ災害を引きおこしました。明善関係者におかれまして被災されました方々にお見舞いを申し上げます。一年の九州北部の水害、昨年の伊豆大島の大雨と土石流や、今年の関東、甲信越の大雪害など人類が地球の環境破壊を続けてきたことに対する報い、自然の怒りを感じずにはいられません。日本人の心の中には昔から自然に対する崇拜の念とともに、自然と人間が共存・共栄していく道を求めてきたと思えます。

ところで私事になりますが、昨年の明善大同窓会の折には皆様お揃いで参加していただいたのに、私自身がかからだをこわして欠席を致しました。これまで入院どころか、点滴も手術もしたことのない私にとつて、健康であることの有り難さをつくづくと感じた次第であります。どうか皆様におかれましても、益々ご健勝にて活躍されますと共に、明善同窓会関東支部のいよいよの発展を祈念してご挨拶と致します。

第47回明善大同窓会へのお誘い

第47回実行委員長 昭和54年卒 稗島行雄

日時 平成26年10月4日（土）14時30分開会予定
場所 ホテルマリタール創世
久留米市東櫛原町900

テーマ 「現在・過去・未来」心はいつも青春
会費 六千円

明善同窓会・関東支部の皆様、こんにちは。本年の第47回大同窓会を担当させていただきます。不向き届きの稗島です。不向き届きの点も多々あるかと思いますが、精一杯務めさせていただきますので、多数のご参加お待ちしております。



さて、今回のテーマは「現在・過去・未来」心はいつも青春といたしました。明善高校は、現在、立替工事の真っ最中です。既に中庭を囲む北側棟が完成し、26年は同じく西棟、南棟が完成します。そして3年後の平成29年には、新しい姿の母校が完成する予定となっております。今回の大同窓会では、先輩諸君の皆様が、高校時代を懐かしんで語り合い現況を確認し合っって無事を喜び合ってくださいませよう「お・も・て・な・し」のころをお迎えさせていただきます。また、思い出が詰まった校舎がなくなってしまうのは寂しい思いがいたしますが、明善高等学校の後輩たちがまさしく過去から未来へとつながる新しい学び舎で、勉強にスポーツに青春を大いに謳歌する姿を皆様にも少しもお伝えすることが出来ればと考えています。つきましては、関東支部の皆様も是非ご来場を賜り、青春時代の熱い思いを共に語り合ってくださいませ幸いです。

最後になりますが、関東支部のみなさまの益々のご健勝とご発展をお祈りし、平成26年の明善大同窓会のお誘いの挨拶とさせていただきます。

素晴らしい仲間達

明善69会(44年) 原口兆弘

明善69会(44卒)では前年に引き続き忘年旅行会を行いました。日程は、多くのリタイア組を想定し12月1日・2日の日・月曜日、箱根を設定しました。幹事の声かけも功を奏したのか、4名の久留米からの参加を含め、総勢25名の参加で盛大に忘年会を行うことが出来ました。未だ現役の人もいて「月曜日は仕事なので参加できない」との声も何件ありました。さらに、月曜日の早朝、仕事があるとのこと朝食も摂らずに東京に向かったメンバーもいました。幹事としては、参加者に対しては感謝ですが、現役人には申し訳ないという気持ちでいっぱいです。

初日は現地集合ということで、三三五と宿に到着。宴会までの間、部屋でのんびりしていたり、温泉に浸かったりして過ごし、いざ宴会になると、箱根の宿の一室がまるで久留米そのものという状態になっていました。私を含め皆は久留米が大好きなのだ改めて確認しました。盛り上がるだけ盛り上がったところで忘年会をお開きにして部屋に戻ると、一つの部屋に全員が集まり二次会が始まります。ここでは、久留米の大同窓会で流れていたDVDを観賞しながら、「あつ、〇〇〇(先生のあだ名)だ」と言って懐かしく感じながら大いに盛り上がりました。用意していた飲み物もつまみもあらかた喰い尽くして、11時過ぎには解散し一日目は終了しました。

翌朝、ゴルフ組は時間前の朝食を手短に済ませ、嬉々としてゴルフ場へ向かいました。後のメンバーは、現地解散ということで、朝食後は、帰途に就くものや、箱根散策もショートコース組とフルコース組というイメージで、思い思いにグループを作り、宿を後にしました。

今回の旅行で、一番気がかりだったお天気もまあまあで、散策コースでは富士山も姿を現すという幸運にも恵まれました。天気運の強いメンバーが大勢いたのかな? 何れにしても、明善69会は素晴らしい仲間達です。



年齢から考えればどうしても梅の歯が欠けるイメージが拭いきれませんが、全員が元気でいつまでも活動を続けていたいと思っています。そして、10年後、20年後にまだ続いているという状態にしたいと思います。最後に、全員の健康を祈念して筆を置きます。

69会雑感2014

昭和44年卒 嶋田 哲

今年の3月で明善を卒業して45年になる、故郷久留米を出ての生活がはるかに長くなってきているが皆の話を聞くと還暦を境にふるさとに帰る頻度が増えている、昨年の大同窓会に出て久留米に残っているメンバーの話聞いて羨ましいと思った事がある、同期の息子が娘たちが明善に学んでいた事である、親子して明善に学べたという事は実に羨ましい我々在京メンバーでは叶わぬ事である。

私も親父が昭和8年の中学明善卒業で親子2代で明善に学んだ口だが、次は在郷の誰かから3世代を明善で学んだという話を聞きたいものだ。前置きはこれくらいにして69会ゴルフの話しよう、69会でゴルフを始めたきっかけは友人の死が関係する、2006年だったか野球部の某君が未だ50大半ばでガンで倒れてしまった、葬儀に参加したメンバーから我々も何時召されるか解らない、動けるうちに楽しんでおこうという意見で一致して2006年の11月に第一回を太平洋クラブ相模原コースで開催した。参加者は前田、瀬戸、澤、中野、岡崎、船木、日比生、嶋田の8名、年齢は56歳であった。



それ以降年に2回のペースでゴルフを楽しんでいる、写真は昨秋に16回目を開催した蓼科高原ゴルフ倶楽部でのものである、大体2〜3組が集まり前泊で宴会した後翌日プレーして解散というスタイルである、時には久留米からの参加もあって盛況である。同期の姉たちからやっかまれるの時には同期会とダブらせて温泉地で忘年会を兼ねて臨時のゴルフコンペをやる事もある。年齢も63歳になってしまった、後何年、70迄は何の障害もなくプレーしたいと密かに思っているものの体のケア、節制は中々思い通りに進まない。

第11回 熱海・初島風品三昧の旅

昭和46年卒 江端一博

明善四六会の第11回旅行会は熱海。これまでからすればずいぶん近場で、しかも普通の温泉地になった。ここ数年長距離運転に自信をなくしつつあった者が幹事に直訴して「たまにはよからう・・・」と、群馬県案を覆してもらった結果だった。

平成25(2013)年11月9日、曇天でときどき小さな雨粒がポツリポツリ。東名高速海老名SAで3台の車に分乗した11名は集合し、小田原厚木道路や真鶴道路を経由して、熱海の船着場へ。熱海港から初島に渡ることにした。餌をねだるカモメに混じって、トビが出航前の船の近くまで降りてきた。トビが空を悠然と飛ぶ姿は見知っていても、鷹のような精悍で猛猛そうな容姿であることを知る機会がなかった。船に乗ると修学旅行の話題になる。小倉から大阪まで関西汽船で瀬戸内海を渡ったときの、暑い船室や寒い甲板のできごとなどを、昨日のこのように思い出すことができるのだ。初島の到着港は初島漁港。歩き始めは既に昼食の時間、食堂街をぶらぶらと11名の団体を受け入れてくれる店を探し、復旧工事中の旅客船ターミナルの前にある食堂で、女性陣も井物をたいらげ、エネルギー充填完了。もちろんアルコール燃料も追加したのだった。(ドライバーは、もちろん、じつと我慢...) さらに島を歩いて、目的地「初島アイランドリゾート」のアジアンガーデンに到着。ヤシや棕櫚の木を植えた広場に、ハンモックやテーブルセットが点在する、のんびり過ごせるスペースだ。ハンモックの心地よさを再認識した人も多かった。しかしここはやはり、少し下ったところにあるプールで遊んだあとに水着のままであがってきて、トロピカルドリンクを手しながら寝そべる、そんな美女が似合う場所であることはまちがいない! 暫く季節外れのリゾート気分を味わったあとに、施設内にある「海泉浴 海の湯」に。

内風呂と露天風呂がある当たり前の風呂だが、とにかく塩辛い。荒れた肌にビリビリと塩分が突き刺さる風呂ではあったが、海を眺ながらゆつくりできる。帰り道は、のんびりと散策がてら、海洋資料館で閉館過ぎまで写真や標本を見学し、土産物屋で島の特産物など買い物しながら、来た道を戻る。店先に「天草 出世海苔」というのがあり、「わざわざ天草から移入しなければならぬのかあ」と心配していたら、これは「アマカサ」ではなく「テングサ」と読まなければならない、とんだ誤りだった。今夜の宿は、熱海(静岡県) といっても神奈川県境

の伊豆山温泉にあるホテル。宿に着くと、仙台から横浜経由で金子氏が「一ノ蔵」を手土産に先乗りしていた。スパークリング酒ということで女性陣に贈られ、結果的に男性陣はご相伴にあずかれなかったのは残念至極だ。金目鯛の煮付けをメインにした食事を楽しんでいる頃に、中野氏が出張帰りに合流。予定した全員が揃ったところで、引続き体育会系合宿様の二次会へいつものように流れ込んで、「熱海の夜」は更けゆくのだ。

翌日の予定は、沼津港で「巨大かき揚げ」を食べることにしていたが、熱海と沼津は目と鼻の先。昼食には早過ぎる、ということ、MOA美術館訪問に決定して、各車に分乗して出立した。源頼朝と北条政子が運命的な出会いをしたことで有名な(縁結びのパワースポットのひとつ)伊豆山神社参拝の案もあったが、強風と雨という悪天候で却下。シルクロードに関係した遺跡品や、浮世絵版画や、数々の美術品をじっくり鑑賞して、はたまた日本庭園や尾形光琳の京屋敷を再現した建築物を散策して、数時間を過ごした。

【美意識に程遠いものの眩き】尾形光琳の「紅白梅図屏風」を所蔵していることで有名な美術館だが、黄金の茶室や能楽堂を設けていたり、結構派手な印象を持ってしまふ。実をいうと、その圧巻は、正面玄関から延々と続くアプローチだった。美術館を出るときには、本格的な強風と雨。その中を、熱海函南道路をビタバタと走り、沼津港へ。沼津港では、当初予定の「巨大かき揚げ」はサッサと諦めて(タマネギばかり多そう、初老には胸やけのモトにしかならないかも...) 12名を受け入れてくれる食堂を選んで待つこと約30分、閉店時刻近くになり慌ただしい昼食となった。半数のひとは、沼津市B級グルメ「ぬまづ井」を注文。その店の「ぬまづ井」は、炊き込みご飯に、桜エビ・シラス・焼アジ・アジ刺身をトッピングしていた。トッピングは定石らしいが、炊き込みご飯が王道かどうかはわからない。今回もまた何の大事もなく、旅行会を終えることができた。今回は軟弱な人間のほやきで近場になったが、次回はどうしても、と、群馬県の温泉地が候補地に挙がっているようだ。

幹事役を楽しんだ「入学40周年記念同窓会」

昭和51年卒 山下幸男

51会では、過日「祝明善高等学校入学40周年記念関東支部」同窓会」と銘打って、25年秋同窓会を開きました。少し長い標題ですが、「合格、おめでとう」から40年になるのを祝した会です。

同会は、基本的に年二回(春と秋)の同窓会を開いています。各会の幹事は直前の同窓会で選出されており、今回原稿を書いている幹事も25年春同窓会で選出された者で担当します。

その幹事が高級料亭の一室に集まり、同窓会について密談(?)したのが、真夏の日差しが照りつける8月中旬でした。同窓会の開催日程は特定されていたので、それ以外の開催場所や趣向などについて、各自の思いを述べ合い、意識合わせをしました。最初に挙げたチョット変った標題も、この密談の中から生まれました。一般に卒業を基準に捉えることが多い同窓会ですが、51年卒のメンバーが入学から40年を迎え、また、入学に始まり卒業するまでの三年間が高校生活であり、その起点を振り返る機会にしようという訳です。

密談の後、早速、会場の下見と予約に動いたのですが、狙っていた会場は全て予約で埋まっていた、開催までに余裕があるにも関わらず参ったという感じでした。「しゃんなかねえ」と放って置けないので、足を棒にして会場を確保しました。これで一次会の会場は安泰です。しかし、二次会はどうするか。

二次会とは言え、これまで殆どの方が一次会に引き続き参加するので、いっそのこと発想を変え、一次会と二次会をワンセットとし、場所を変えた一体の40周年同窓会としました。そのような発想に立ち、少数メンバーに声をかけて、異なるメンバーによる二次会会場下見を名目としたプチ同窓会を複数回楽しみました。

九州からの参加者、入学したが親の事情で転校した旧友なども加え、過去最高の参加者数31名を記録しました。「チロリアン」を口に運びながら、九州から直送された「高校生活について、大いに盛り上がりました。

幹事は大変ではありますが、企画が実現して行く喜びや準備を口実に有意義な時間が過ぎます。ということで、皆さん、各同窓会の幹事、引き受けてみてはいかがですか?

(幹事団 三浦嘉子、中村永子、友池哲雄、山下)



久留米での楽しい逸話と夢の三日間

昭和52年卒 池田和也

昨年5月の関東支部大同窓会の後、6月には久留米の小田さんを囲んで昼はスカイツリー、夜は銀座という面子一部入れ替え有りの二部構成同窓会、今年2月には名古屋の緒方君を囲んでニクヤブツチャー同窓会、さらに忘年会、新年会と旧交を温めております。其々ご紹介したい楽しい逸話がありますが、ここでは昨年10月の久留米大同窓会の3日間に絞って筆をとります。

一昨年に52卒が本部総会の幹事を勤めたことで久留米の幹事の基に同期の集結力、結束力が高まり、昨年も多くの旧友、関東からも10名が集まりました。前日の金曜日に私は久留米入りしました。52卒の溜まり場である同期の宮崎君の餃子屋「湖月」に向かう途中のこと、エマーズ前交差点で代表幹事の瀬戸さんと遭遇したので。つくづく久留米は狭い。そう思いました。それと云うのも「湖月」で散々酔っ払った後の二次会で行った森安酒店で別府会長とこれまた遭遇したからです。「遭遇」とは失礼な言葉ではありますが、一日に二度重なる偶然な出会いはなかなかありません。いざいざにしても「感動」を含めた意と汲み取っていただければ幸いです。この後、同期の中西君の連れと合流しお洒落なカウンターバーでジャズに身を委ね、その日は散会しました。

総会当日となる土曜日には沖食堂に集合という企画がありました。二日酔いのため欠席です。私は近くの大栄ラーメンに行き、そのままハイネスホテルに直行、開会後の美酒美食に酔いしれました。ここでのくんだりには各年次皆様と同じだと思えますので割愛します。

二次会となる同期会は同じハイネスホテル内に80名が集まりました。三次会は一歩先の「ファンキードッグ」にだけ集まり、貸切で50名が集まりました。飲めや、歌えや、踊れやの「狂乱のシンフォニー」(メゲデス)です。写真はその時のものです。この日はまた「湖月」に行き散会です。



日曜日は「あの日に帰りたい」「明善へGO」です。一昨年大同窓会の翌日に私は有志6名と明善を訪問しました。そのことを年賀状に書き、みんなに呼びかけました。「明善を再訪したいですね」その言葉を久留米の幹事諸君が実現してくれました。総勢30名が参加しました。明善は建て替えの最中で一昨年に見ることが出来た中庭は記念碑とともに整地されていました。音楽室、美術室、理科室、体育館、その他すべては当時のままでした。

昼食はラーメン組、うどん組に別れましたが、再集結し、15名が篠山城にある有馬記念館の見学に行きました。競馬の有馬記念の成り立ちから始まるビデオ上映、数々の貴重な展示物を拝見しました。明善の歴史が始まる地です。勤王派、佐幕派がせめぎ合い近代日本の幕開けに深く関わった地です。私は水野正名碑、小河真文碑に手を合わせました。夜は焼き鳥やに再集合、最後の最後は3度目の「湖月」へなだれ込み、散会となりました。思えば3日続けて夢のような日を過ごすことができたと思います。

2014年2月8日

昭和56年卒 秋永佳世

2014年2月8日ソチオリンピックが始まった。この文章を書いています。現在午後2時東京の気温はマイナス1℃、大雪警報が出されています。都内で雪が積もることはめったになく、いったん積もればそのあと何日かは大変な状態になることは周知の事実です。きつと「あの時の大雪は」と言われるようになることでしょうか。さて2016年の大同窓会に向けて動き出したわれらが56年卒は回を重ねてメンバーを増やしつつあります。2013年の久留米大同窓会には39名が出席し、来る2014年の8月16日(土)には久留米ニュープラザで同期会が行われることになっていきます。まだまだ人数が足りていませんのでこれをお読みになされた方、ぜひひまわりの同級生へのお声かけをお願いいたします。

また昨年は9月、11月と私の拙いコンサートにお出かけいただきました。誠にありがとうございました。本年度は10月18日(土)午後2時より飯田橋トップアールにて「アフタヌーン・コンサート」秋永佳世と愉しい仲間たち vol. 2」を開催いたします。芸大時代のヴァイオリン、チェロ、ピアノのお仲間と「オンブラ・マイ・フ」や「私を泣かせてください」など名曲の数々をお聴きいただく予定です。ぜひ足をお運びください。お待ち申し上げます。



大同窓会幹事を来年に控え

昭和55年卒 伊東美晃

2月1日の土曜日。場所はこれまたマイナー?な浜松町。そうです、その昔、久留米の田舎からはるばる東京に出てきたときに、初めて体験したモノレールの終着駅。その後の人生の中でも、皆さんのいろいろな思い出がある街です。この街の「Hamachan」という素敵な場所を古賀事務局長が仕切ってくれたおかげで、壮大な会の幕開けを迎える事が出来ました。20名を超える同期が集まるなか、はるばる久留米からも来年の大同窓会を見越して、学年代表の寺崎クンと副代表の石原(旧姓佐藤)さんも駆けつけ、大同窓会への意気込みと団結をみんなに啓蒙すべく語ってもらいました。もちろん、同窓会の終身会費の案内と納金促進も(笑)。卒業後に初めて会う同期もいたり、お互いの仕事や環境の近さに驚いたり、ワインやビール、美味しい料理も手伝わってくれるなか、あつという間にお店貸し切りの時間は過ぎ去りました。これが今生の別れかと言わんばかりに名残を惜しみ、結局、その後はすぐそばのカラオケボックスにみんなでなだれ込む始末。夕方から始まった会も、気がつけば終電を気にしなければならぬ時間となっていました。

もう、次回の大同窓会まで半年ちよつと。今回の会が開催できたことで、僕らの幹事年の来年までは1年半ちよつとあります。五十の齢を過ぎた自分たちにとつては、この一年半なんてあつという間、今まで生きてきた時間のたった二十分の一くらいでしかない事は、それぞれがよく理解が出来て、関東支部総会幹事の時に、新たに気を引き締める機会になったのではと思われれます。



平成25年総会幹事を振り返って

昭和60年卒 南 公雄

思えばこの幹事は平成24年6月の同期の田中孝典君からの電話で始まった。「7月に明善高校の関東同窓会があるけん、来んね？他の同期も結構集まるけん、よろしく。」行ってみると同期はわずか6人。田中君に半ば強引に壇上に引ッ張られ、前代表幹事の淡河さんから学生帽を受け取った。これは何を意味するのか。まさか幹事か？全ては田中君の陰謀だと思っただが後の祭りだった。

翌日から関東在住の同級生集めが始まった。仲間が仲間をよび最終的に50名弱に連絡。秋に決起大会を実施し、皆で一致協力して会を成功させることを誓った。ただここからが大変だった。例年に比べ2ヶ月早まっているにも関わらずまだ会場が決まっていなかった。仕事の伝手を頼っていくつかホテルに当たり、年末までにはいい条件で提供してくれる会場を見つけた。さて次は早く講演者を決めないことには、案内状を発送できない。年が改まって月に2度の割合で企画会議を実施。講演者候補は何人も出たが、結局一番頼みやすく、テレビ出演などで活躍している同期の森智恵子さんをお願いして快諾を得た。

発送や作成物作業は休日にみんながたくさん集まってワイワイと本当に楽しく、学生時代の話で盛り上がった。最後はGWの連休を挟み、2週に一度の頻度で集まり、クイズ考案、司会、PC回り、写真撮影など、うまく役割分担もできて会を迎えた。

当日、総会の出席は総勢180名弱。学生も30数名が出席して例年に増して華やかな会となった。うち同級生の出席は32名。最初は、みんな仕事や家庭を



持ちながらで余計な仕事を引き受けたなどの印象だったと思う。ただ同級生でこんな作業を行うのは高校時代以来、愛校心と仲間意識で本当に楽しい一時期を過ごすことができたと感じている。その後も同級生の交流は続いており、このような機会を与えてくれた本同窓会には感謝申し上げます。

平成26年明善高校関東支部同窓会開催

昭和61年卒 尋木浩司

平成25年7月31日午後7時、新宿三丁目にある小さな焼肉屋に次々と明善高校61年卒のメンバーが集まりました。女性2名を含む合計16名のメンバーであったが、27年の時を超えての仲間との再会の感覚は、「ノスタルジック」という一言では到底語り尽くせないものであった。再会の契機となったのは、明善高校関東支部同窓会の幹事という職責遂行のためであったが、この契機が無ければ関東に散存している明善同期がこの小さな焼肉屋に集まることはあり得なかったと言わざるを得ない。

フェイスブックというSNSの普及が一度切れてしまった人的関係を再び結びつけ、現在、地元に残っている仲間も含め明善高校61年卒の全同期の2割程度がお互いの現在の状況を了知することが可能となっている。デジタルツールがほぼ皆無であった高校時代を過ごしたアナログなメンバーが現代のデジタルツールの助けもあって年齢相応の様々な経験をオーラに纏って集合し、高校生活の3年間における共通の話題、共通体験を語り合うにつれて「新宿」の空気が「久留米」の空気に完全に変わって、多量のアルコールの摂取も影響して時と場所が捻れたかのよう

な不思議な錯覚を覚えた。時計の針が深夜の12時を超える頃、更に規模を拡大して再集結することを約束して散会となったが、様々な会話を通じて、失われていた多くの記憶や想いと共に10代後半の



第6回 秋明戦

昭和51年卒 友池哲雄

昨年の11月24日、明善高校野球部OB会(明球会)と秋田高校野球部OB会(矢留会)による第6回「秋明戦」が快晴の東大グラウンドで開催されました。過去の戦績は、明善の1勝4敗、最初は軟球で始まったこの試合も第3回から硬球に代わり怪我の心配をよそに往年の高校球児両校約40名が集まり試合に汗を流しました。ほぼ全員がこの日しか硬球を触れないにもかかわらず、やはり高校時代の練習は無駄では無かった、球音を響かせながら9回を戦い抜きました。

我が明善高校は今年も別府監督のもと昨年の逆転負けの雪辱を果たすべく試合に臨んだ。試合は、明善の先攻で始まり後攻の秋田に2、3回に1点ずつ得点されながらも先発江頭が踏ん張り5回表に牛島の二塁打で明善が追いつき2対2の同点となった。しかし秋田は5回に3点、6、7回に1点ずつ加え7回終了時で7対2、当初はここで終了のところ連敗阻止に燃える明善は9回までを要請、流れを変えるべく70歳草場投手が登板したものの秋田の勢いは止まらず、続く抑えも秋田高校の打者一巡の猛攻に合い8点を奪われ15対2で完敗でした。しかしながら怪我もなく試合を楽しむことができました。引き続きいつもの御徒町のガード下で第二試合に突入、その後2度も場所を代え延長戦となりこちらは互角の勝負、年に一度の秋田高校の皆さんとの試合ですが後日若手メンバーによる試合日以外での交流も始まり年を追うごとにますます親交を深めています。

今年も秋に開催されると思いますので是非一度グラウンドまで応援に来て観て下さい。



精神性が蘇ったようであった。

今年の明善高校関東支部同窓会は、5月10日土曜日に開催します。諸先輩方の熱き母校愛により脈々と長きに亘り続いてきた明善高校関東支部同窓会の歴史と伝統を汚さぬよう、沢山の明善OBの方々にご参加して頂けるよう明善高校61年卒のメンバーで最大限の尽力をして会を成功に導きたいと思う。

関東支部「第10回ゴルフ大会」ご案内

恒例のゴルフ大会、昨年は天候に恵まれず、春は箱根で開催するも風雨のためハーフで終了、秋は台風接近で中止となりました。今年も快晴を期待し開催します。同期やクラブ活動の仲間、先輩後輩をお誘い併せのうえ、奮ってご参加ください。

日時 4月19日(土)

場所 水戸ゴルフクラブ

問合せ 申込み

原寛(S55年) harryhara@wd.dion.ne.jp

平野雄大(H13年) yutahirano@gmail.com

会費納入のお願い

協力頂いている方は、総会参加者含め約300名です。関東支部では総会、学生交流会など、年代を超えた同窓生の繋がりを目指し活動を行っています。活動の趣旨をご理解の上、年会費納入に関して、皆様方、特に総会に参加できない方もご協力よろしくお願いたします。(幹事会)

編集後記

立春後二週連続での大雪、百年に一度の最高の積雪。お陰で交通大混乱、計画した帰省も断念、久留米での旧友との再会も果たせなくなった。入学40周年、卒業45周年、夢の三日間など、今回は旧友と健康で元気に再会できたとの同窓会記事を多数寄せてもらった。一生に一度の関東同窓会や大同窓会の幹事団、不安と苦労もあるがその後の思い出が増えること間違いなし、よろしくお願いたします。来年も皆さんからの楽しい記事をお待ちします。

関東同窓会ホームページへも情報発信しています。

http://www.jinryoku.com/

(ユーザ名 meizen / パスワード kurume)

会報委員会 内田直人(51年)、山下政晴(43年)

五十嵐恵美子(47年)、豊福和弘(54年)